

校報



# 水 緒

「知徳の方向 あやまらず 進め」

第 1328 号  
(令和2年度 第11号)  
洋野町立種市小学校  
令和2年7月22日  
児童数 227名

学校運営・教育活動アンケートへのご協力ありがとうございました。集計結果がまとまりましたので本日お配りしました。

アンケート結果を今後の学校経営に生かしてまいります。ご協力ありがとうございました。

## 最後まで

# 「何かできることはないか」と児童会 ～縦割りの仲を深める取り組み～



1学期もうすぐ終わるという時期、児童会の子ども達が、まだ、「何かできることはないか」と考えていました。いつもなら、種小フェスが行われるのですがコロナの影響でできません。やっと動き出した縦割り班の活動をもう一步進めることはできないかということでした。大がかりな取り組みはできないまでも、体育館にいくつかの班が集まってならできるのではないかと。開かれた代表委員会では、「ペットボトルを使ったボーリングがいい」「ジェスチャーゲームなら3密が防げる」などの意見が出されていました。15日(水)から20日(月)まで、グループを小分けにして行いました。

「最後のギリギリまで、よくやってくれたなあ」と感じました。

## 自分で手をあげて、車を止める

### ～渡らせてあげない“意地悪”な交通安全指導～

子ども達が校門のところで手をあげて横断歩道を渡っていきます。たまに校門のところに立っていますが、意地悪に、これまで車を止めてあげたことがありません。その代わりに、自分で手をあげて車を止めてから横断する子に「えらいですね。」と声をかけ、何もしないで待っている子には、「自分で手をあげて車を止めなさい!」と声をかけてきました。そうしたら、手をあげる子が増えていきました。

我々大人の仕事は、大人が手をあげて渡らせてあげるだけではなく、「子どもが自分で渡れるようにしてあげること」だとも考えています。

夏休みに入ると、おうちの方と一緒に歩くことも増えるかもしれません。そのときは、どうか、「ちゃんと自分で安全に歩く

ことができているかどうか」も見てあげていただきたいです。例えば、塀がある曲がり角、横から自転車がスピードを出して通り過ぎるかもしれないのに、立ち止まりもせずフラッと顔を出していないのでしょうか。横断歩道で、前の人が横断すると信号が変わりそうなものも確かめずにつられて歩き出さないのでしょうか。子ども達に「自分たちでできることを増やす」ためにも、おうちでもお願いいたします。

おうちの方々は、子どもが見えるとたいてい止まってくださいます。子どもは、「渡ってよいものか」とタイミングに迷うものものですが、それでもニコニコと待ってくださいます。大変ありがたいです。また、職員がよく口にすることに、「種市の街は子どもを連れて歩きやすい。」ということがあります。街の方々の目が子どもに向けられているということや子どもの安全に気を付けてくださっているということを見学などで連れて歩くたびに感じます。パトロール隊などずっと前からの取り組みが街の雰囲気にしみ込んでいるのでしょうか。

# 学習の保障

以前、子ども達は、友達や先生方と関わり合いながら学習しているということをお伝えしました。ですから、コロナ感染予防に努めながらも関わり合って学習することを少しずつ進めるという内容でした。

学習のことでもう1つ。どうやって子ども達にわかるように教えるかということを考えています。どの子にも、得意と苦手があります。また、発表することで頭を働かせやすい子もいれば、じっくりとノートに向かうことで考えを深める子もいます。たくさんの人数で勉強した方が刺激を受けてよい子であれば、少ない人数の方が落ち着く子もいます。これまで、臨時休業があつたりした1学期でしたが、教え方について工夫できないかということも進めてきました。

人数が多い学級では、担任の先生に加えて支援員さんや少人数担当の先生が入って複数で教えるティームティーチング（「T.T指導」と呼んでいます）を行っています。また、学級を2つに分けて教えることも行いました。そのグループも、同じに分けることもあれば、「どんどん問題を解き進むコース」と「コツコツと丁寧にわかっていくコース」に分かれることもあります（「少人数コース別指導」と呼んでいます）。子ども達はおうちの方や先生と相談してコースを決めてがんばります。「コツコツと丁寧に取り組むコース」には苦手意識のある子が多いように思えるかもしれませんが、そのコースの子達も、90点、100点採ったりといつも以上に力を伸ばしています。大事なことは、その子にあった教え方をすることです。毎時間はできませんが、内容によって、または時間に

応じて、職員室にいる先生も別の仕事を後回しにして手伝いに行きました。また、本校には「まなびの教室」があります。自分の“強い苦手”に合わせた学習のコツを一緒に探します。1対1での個別での対応が可能です。このようないろいろな学習の仕方を用意してあげることが一人一人の学習を保障することだと考えています。職員の数も関係しますが、できる限りの努力をしたいと考えています。

## ＝まなびの教室＝

子どもの中には、

- ・場に合った言動をとれない
- ・文章をよむとか漢字を書くとか、特定のことが極度に苦手
- ・友達との関りが苦手
- ・自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちをよんだりすることが苦手
- ・片付けができない
- ・道具を使うのが苦手

などの苦手なことを抱えている子がいます。そんな子どもの特性に合わせて、書く量をコントロールしたり、字を覚えやすいように工夫したりしながら、「自分の困っているところに対してはこんな風にすればいいんだ」ということを先生と一緒に探したり教わったりします。自分の合ったやり方を身につけて自信を持って取り組めるようになることを目指して、週に何時間か、その子にあわせて個別の学習をします。

# ケイタイ、スマホ、タブレットなど

～学校運営・教育活動アンケートから～

耳障りなこととは思いますが、心配なので

各家庭でルールを決めて、おうちの方の言いつけを守っている子が多かったです。おうちの方にも感謝申し上げます。通信端末で心配されるのは

- ・フィルターは1つではないということ（一般のフィルターの他に、アプリやゲームのフィルターと数種類行わないと不完全なそうです）。
- ・ゲームの中には年齢制限があること

などです。また、「どんどん我慢できなくなっていくこと」も心配です。おうちの方が「やめなさい。」と言ってすぐにやめられるうちはいいですが、「えーっ」としばらく言うことを聞かないで怒られてからでないとやめられないのは、「小さいから」とか「甘えているから」とかではなく、我慢して自分をコントロールできないでいることになるのではないかとということです。

アンケートでは、「おうちの方の前でやらせています。」など、しっかりと大人がコントロールしてくださっているおうちがほとんどでした。夏休みが来ます。おうちでの時間がますます増えます。おうちの方で指導をよろしく願いいたします。

